第３回　小学校統合検討審議会

日時：令和２年８月２８日（金）
午後２時
会場：役場第１会議室

次　　第

１．　開会のことば

２．　委員長あいさつ

３．　議事

（１）保護者アンケートのまとめについて

（２）望ましい教育環境について
・統合校の基本コンセプトを中心に
・最新の教育環境（校舎）について

（３）候補地の条件について

（４）統合校開校までのロードマップ

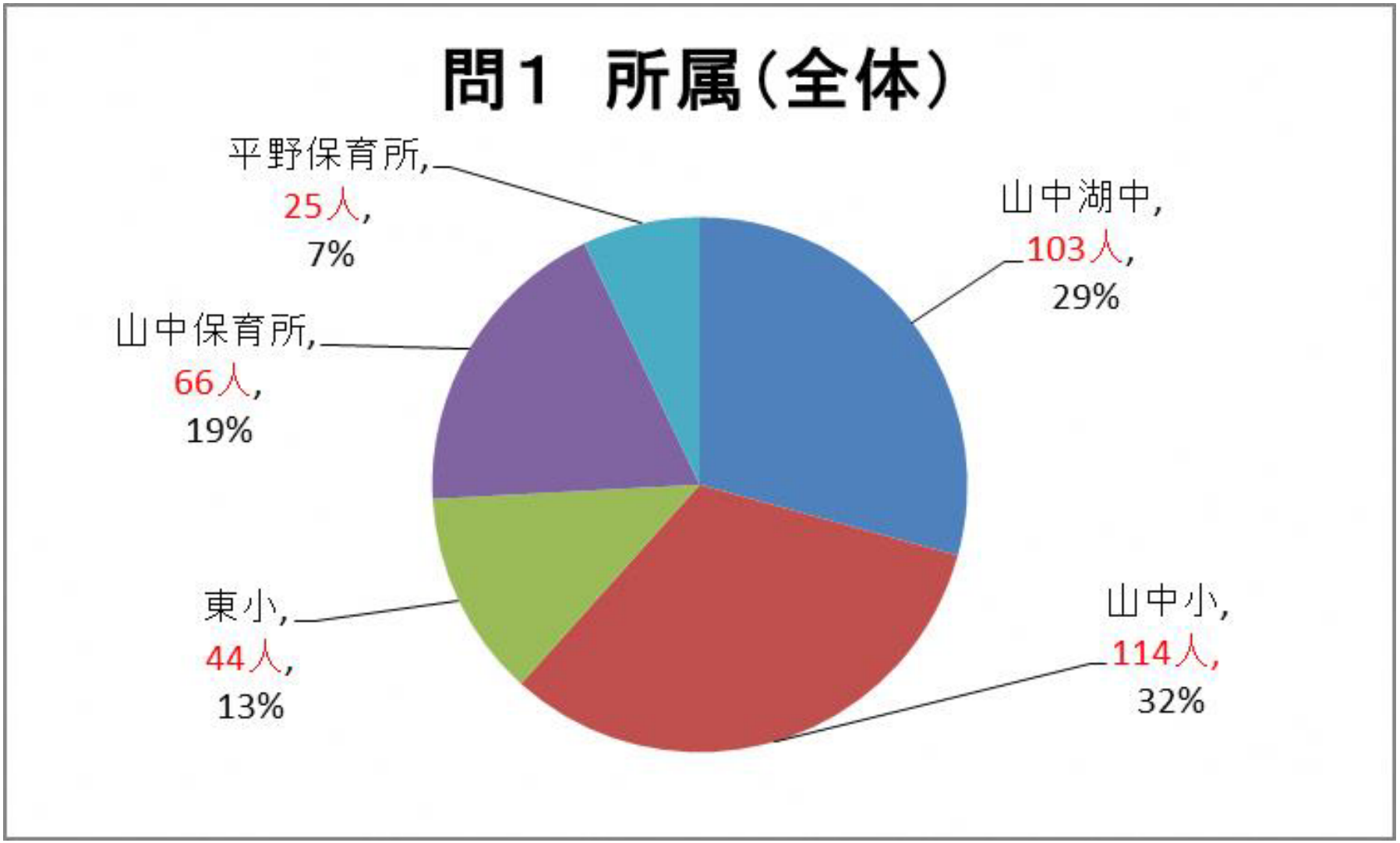
（５）その他

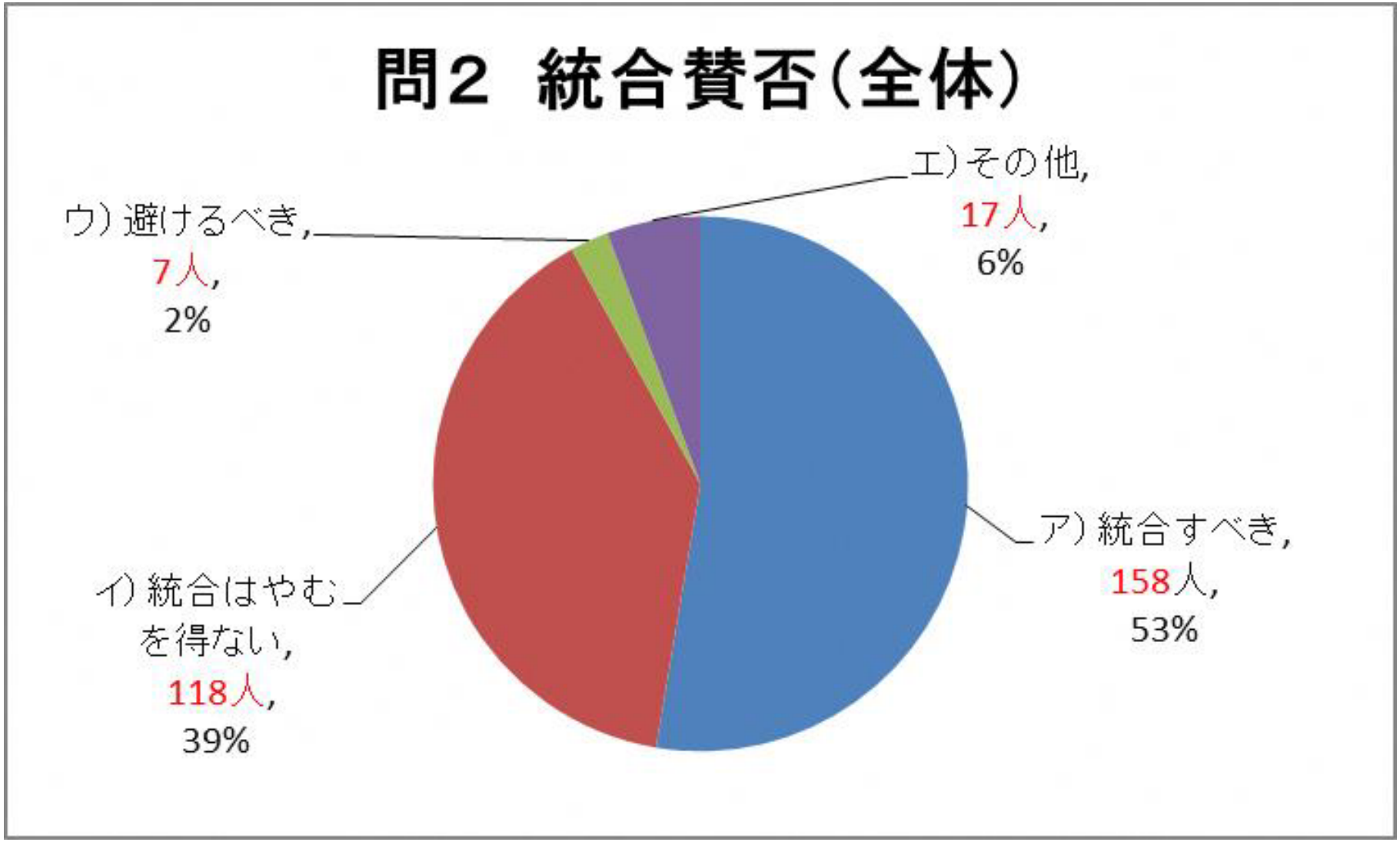
４．　その他

保護者アンケートの集計結果

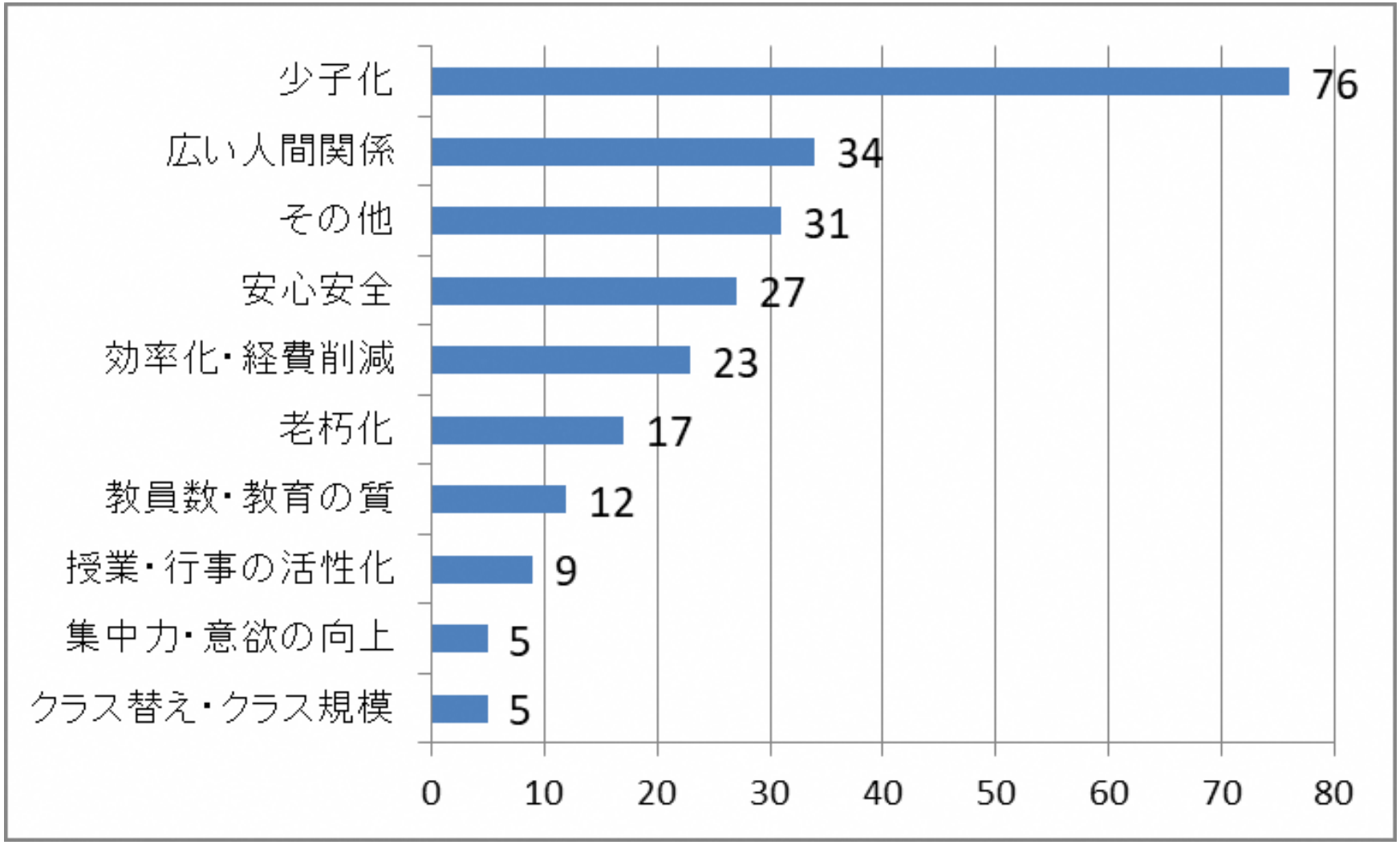
第3回小学校統合検討審議会
令和2年8月28日

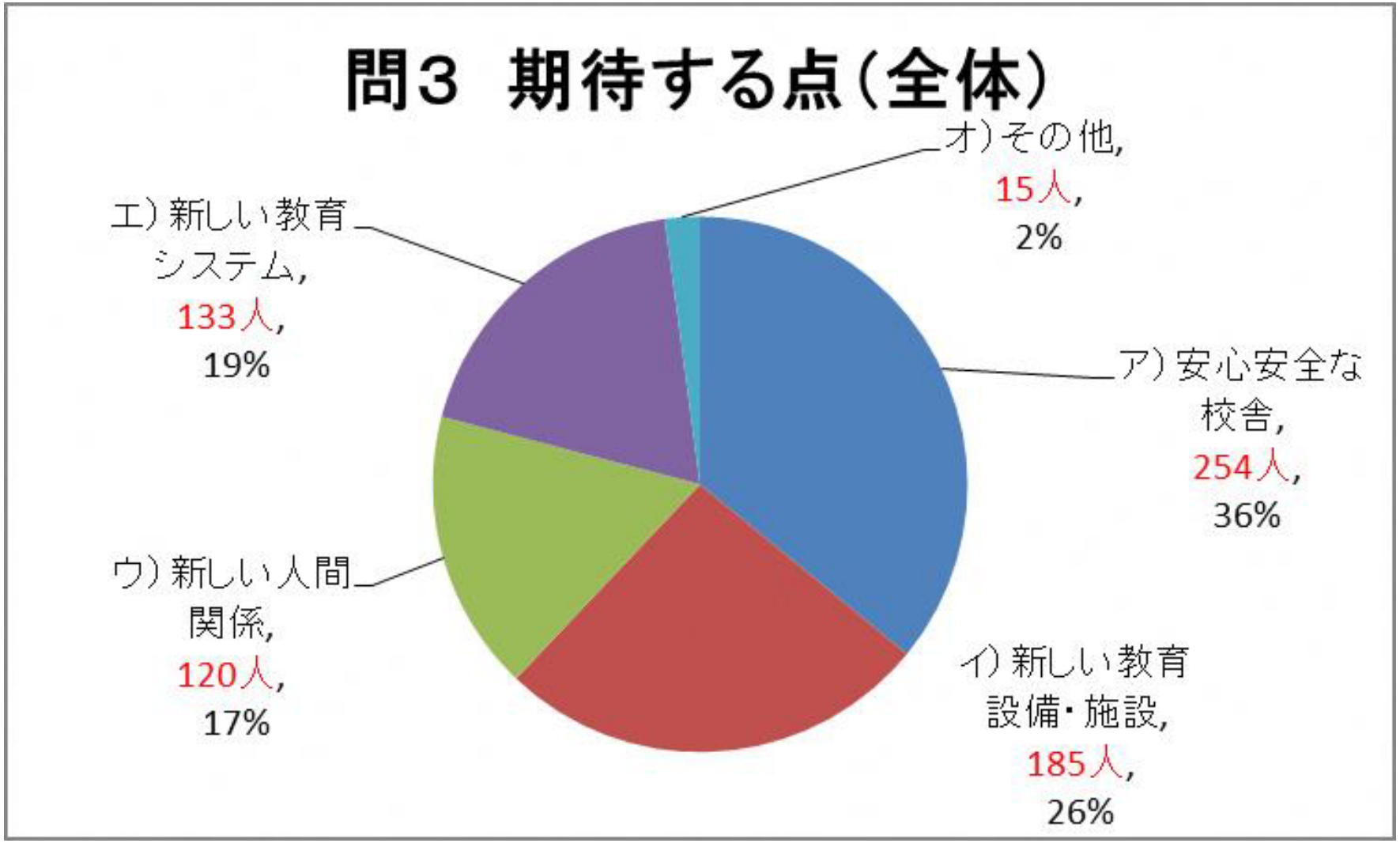
○　保護者の所属


問1　所属（全体）
平野保育所,
25人,
7%
山中湖中,
103人,
29%
山中保育所,
66人,
19%
東小,
44人,
13%
山中小,
114人,
32%

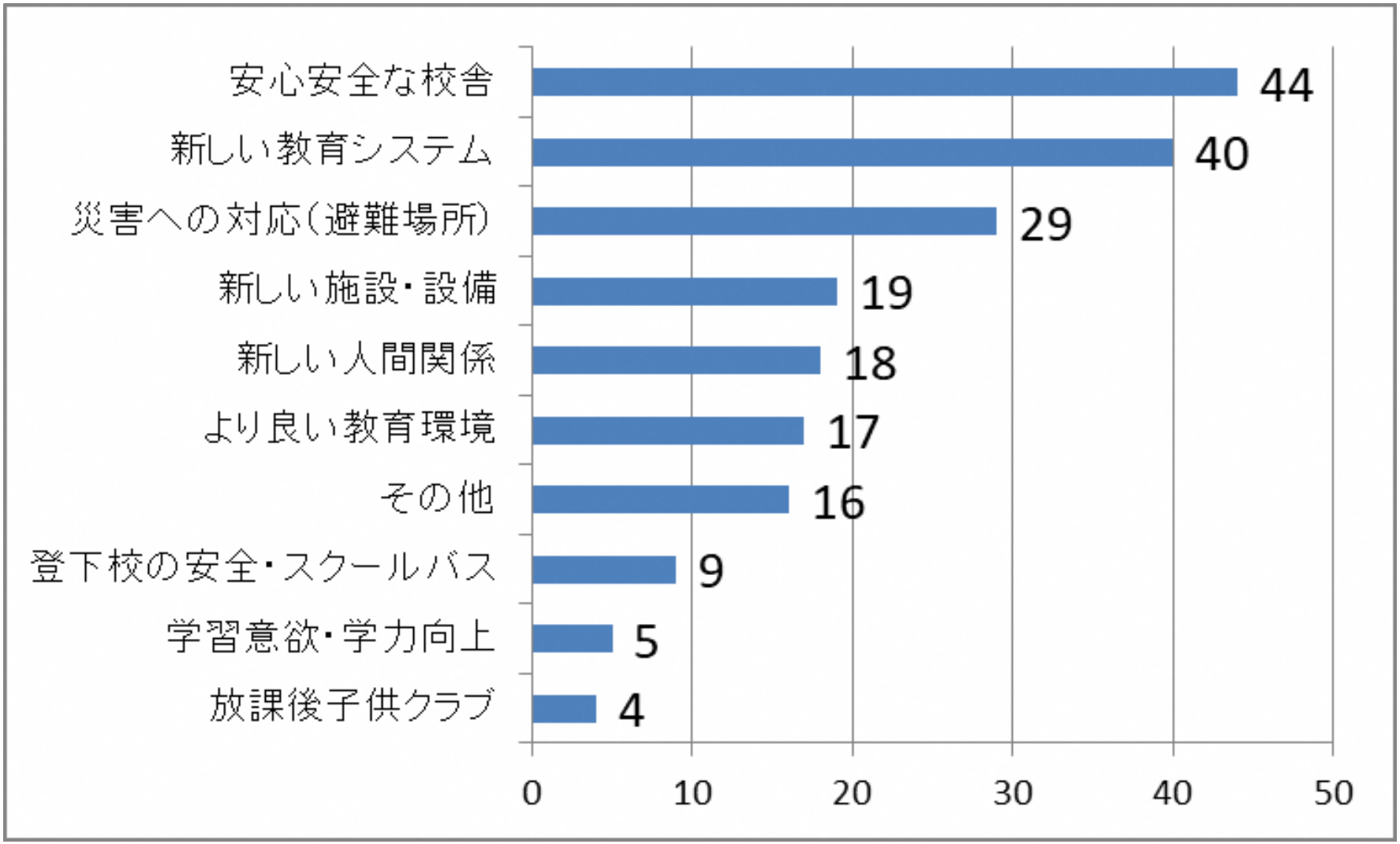

問2 統合賛否（全体）
エ）その他,
17人,
6%
ウ）避けるべき,
7人,
2%
ア）統合すべき,
158人,
53%
イ）統合はやむを得ない,
118人,
39%

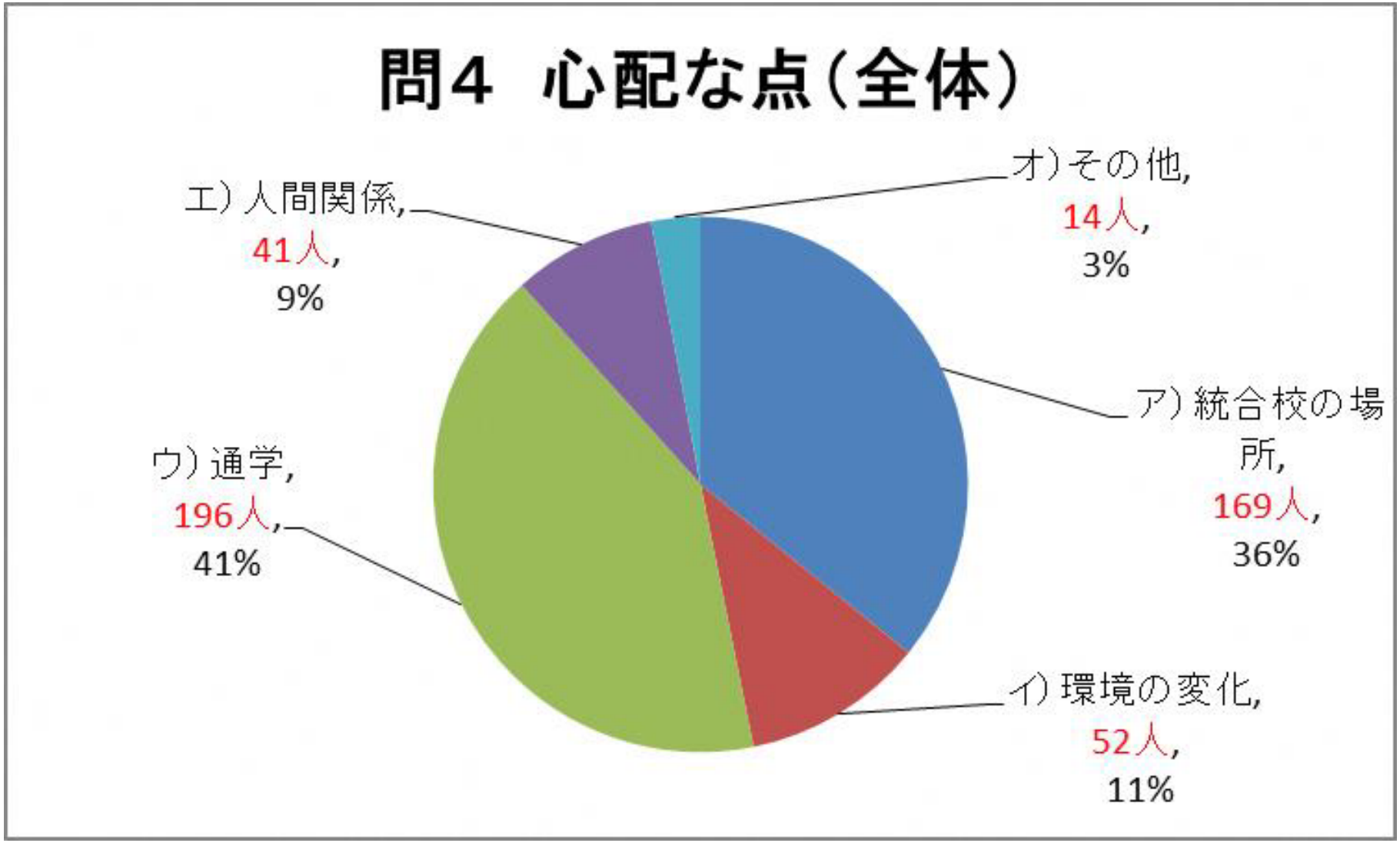
問2　統合賛否の主な理由（記述集計）



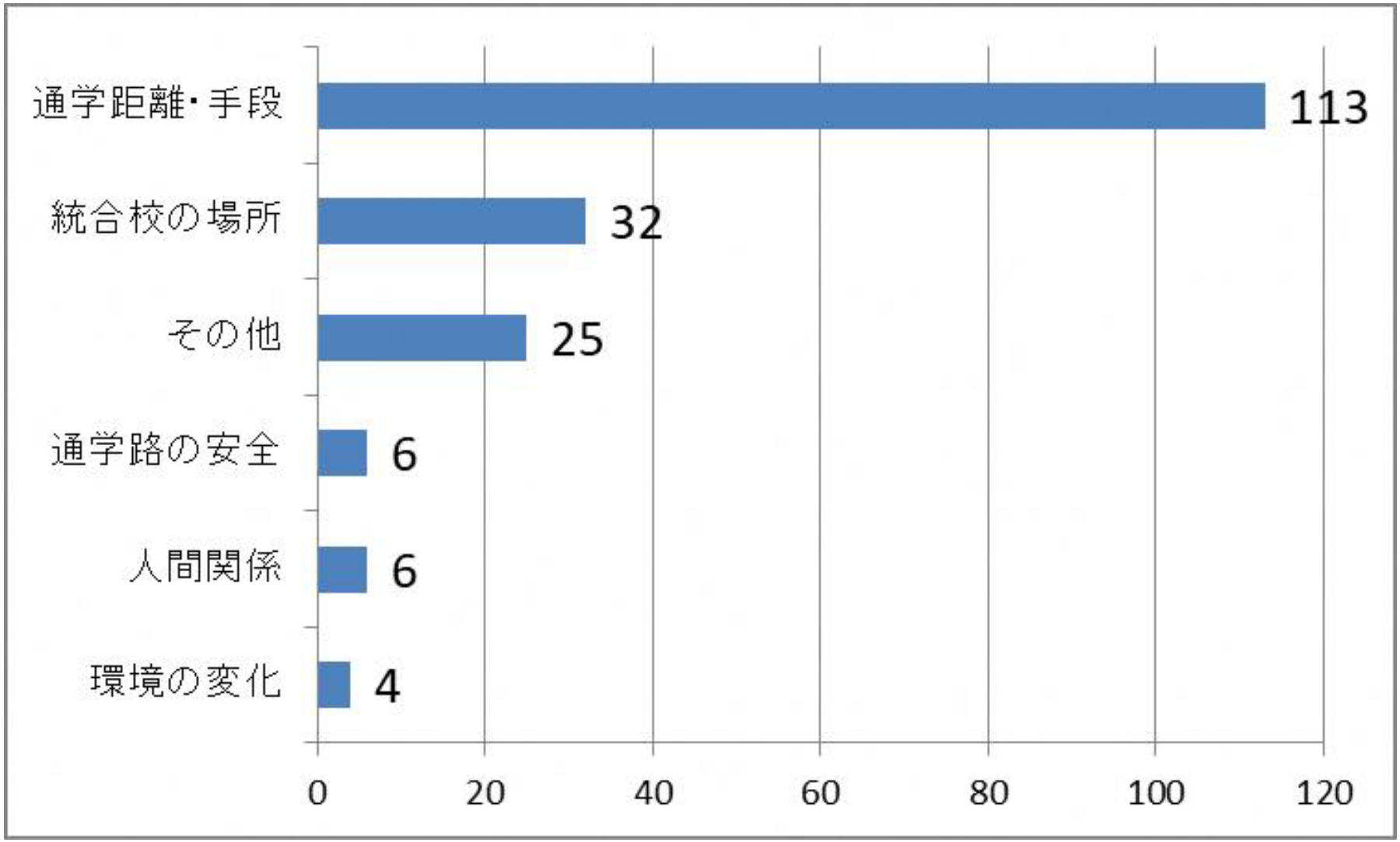

問3 期待する点（全体）
オ）その他, 15人, 2%
エ）新しい教育システム, 133人, 19%
ア）安心安全な校舎, 254人, 36%
ウ）新しい人間関係, 120人, 17%
イ）新しい教育設備・施設, 185人, 26%

問3　統合に期待する点（記述集計）

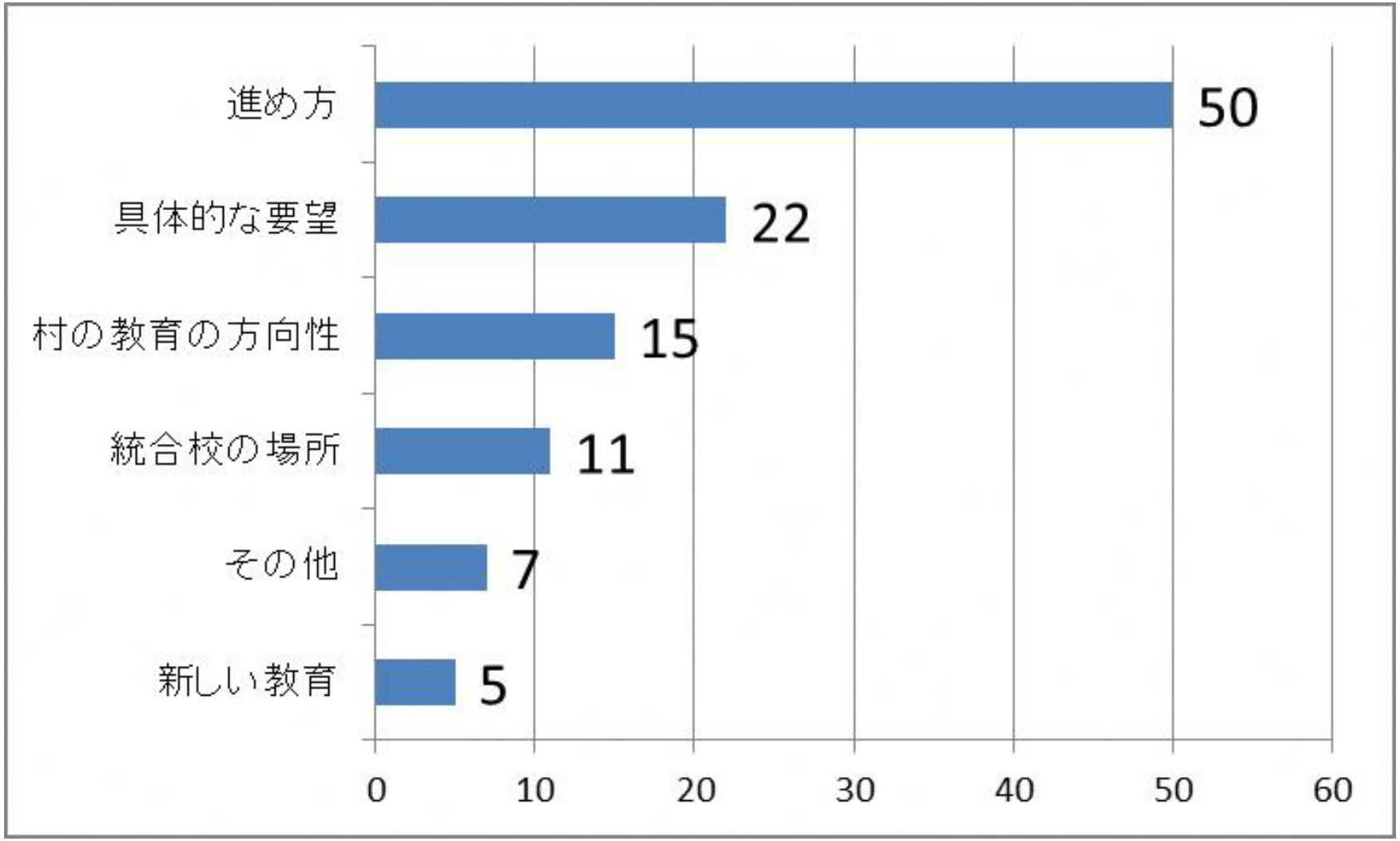



問4 心配な点（全体）
オ）その他,
14人,
3%
エ）人間関係,
41人,
9%
ア）統合校の場所,
169人,
36%
ウ）通学,
196人,
41%
イ）環境の変化,
52人,
11%

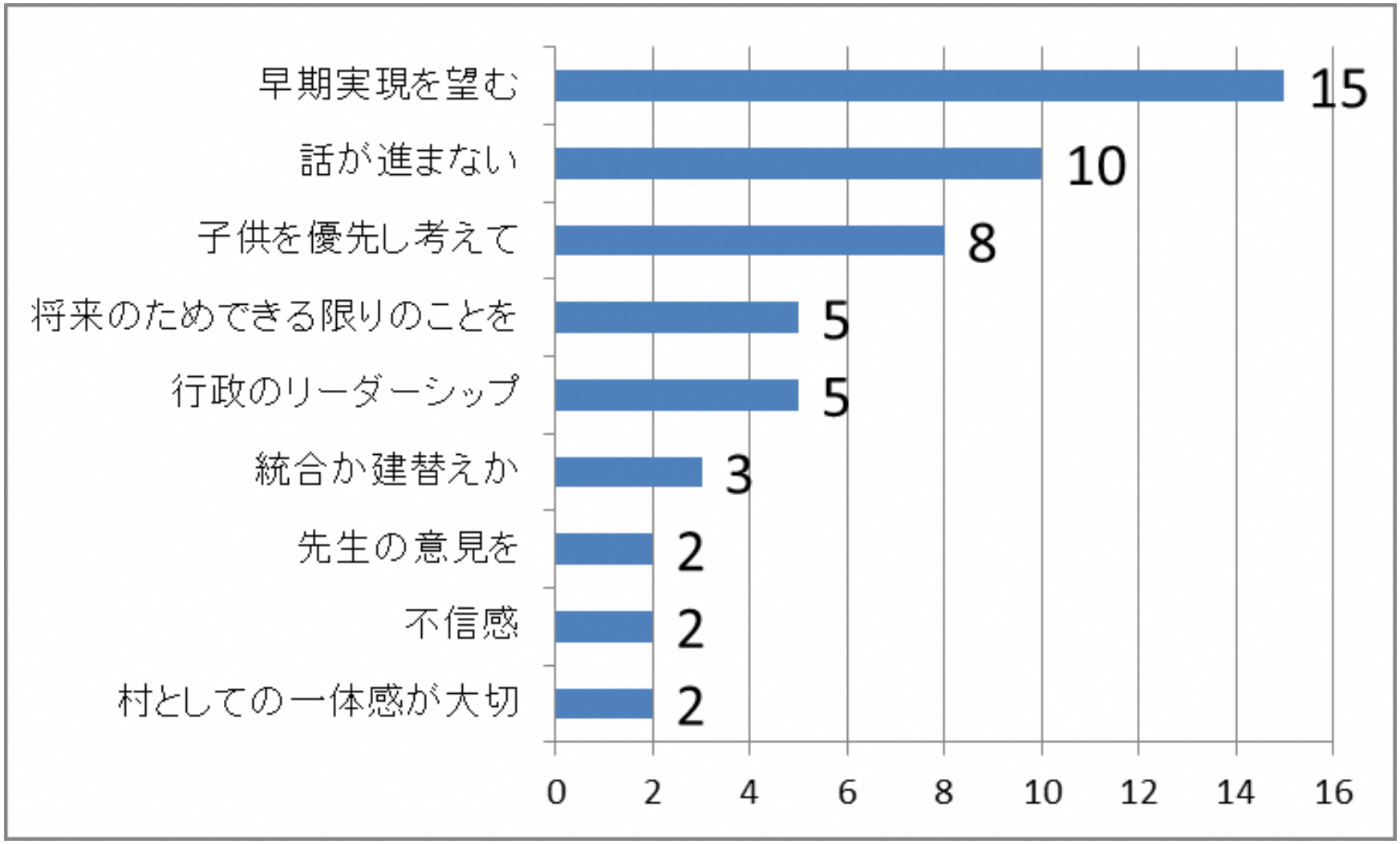
問4　統合に関して心配な点（記述集計）



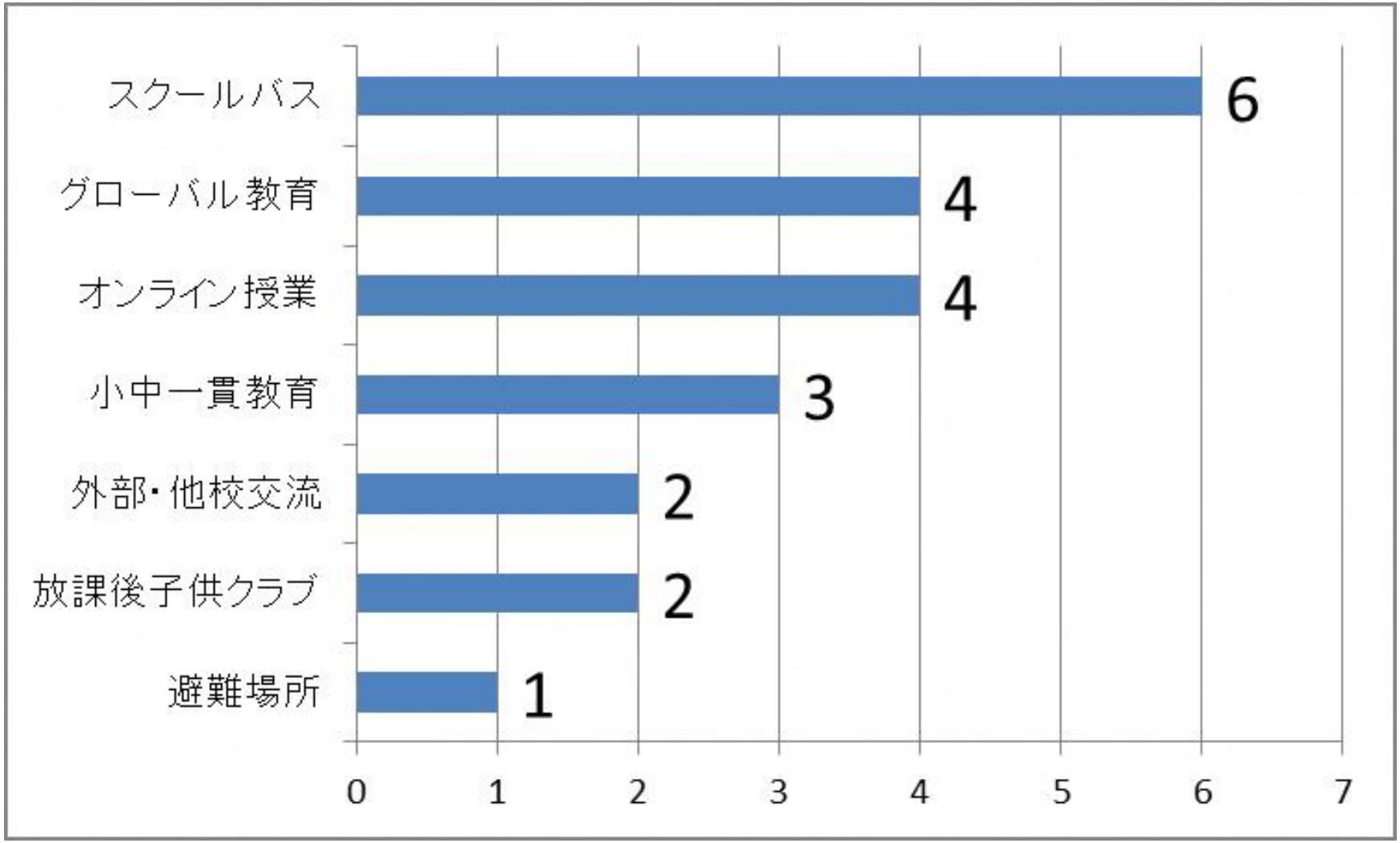
問5　その他（記述集計）
学校再編や村の新しい教育に関する意見



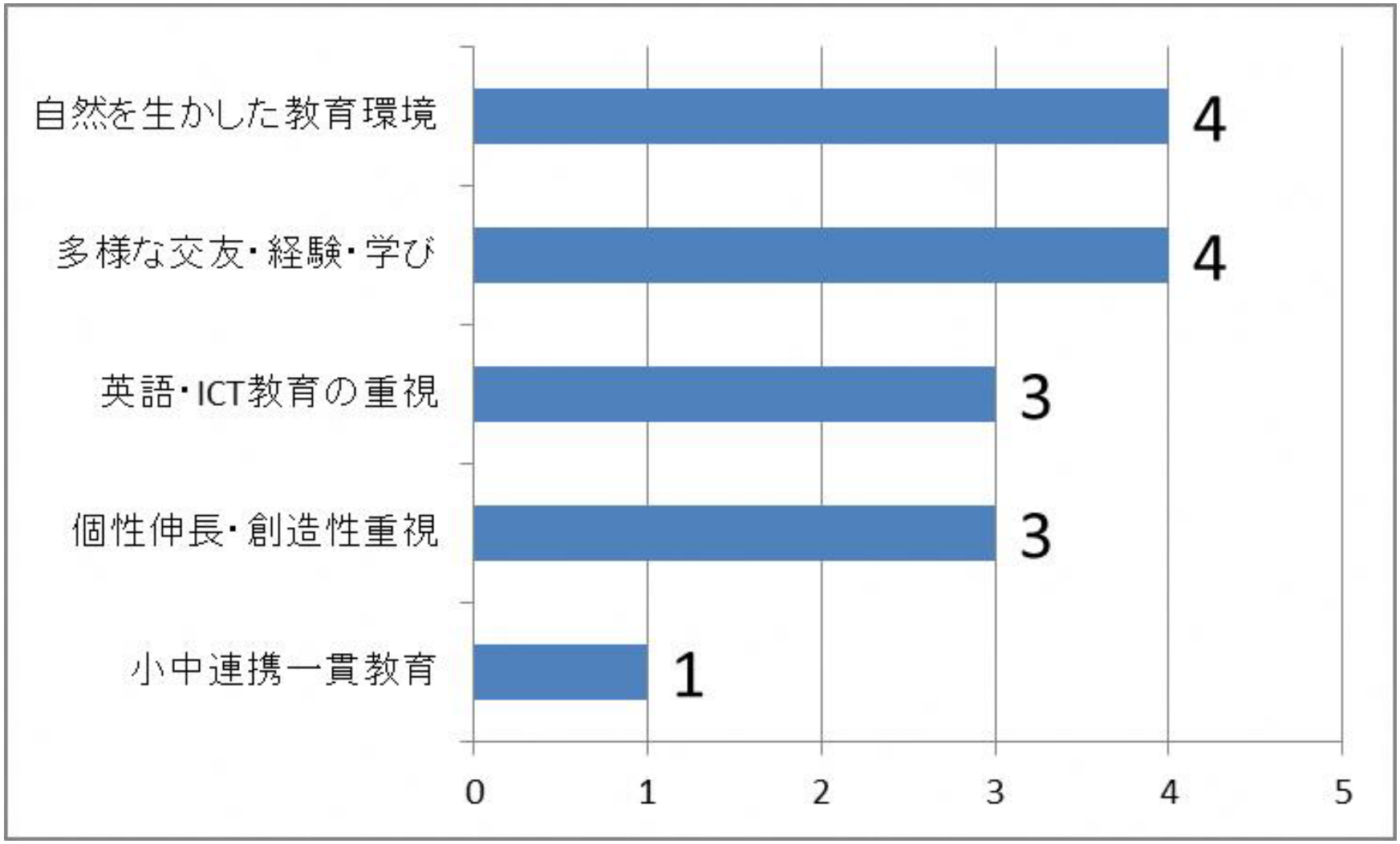
問5 「進め方」の主な内容


早期実現を望む
15
話が進まない
10
子供を優先し考えて
8
将来のためできる限りのことを
5
行政のリーダーシップ
5
統合か建替えか
3
先生の意見を
2
不信感
2
村としての一体感が大切
2
0
2
4
6
8
10
12
14
16

問5 「具体的な要望」の主な内容



問5 「教育の方向性」の主な内容



望ましい教育環境
（統合校の基本コンセプトを中心に）

第3回小学校統合検討審議会
令和2年8月28日

統合校の基本コンセプト

＊令和元年度に三校連絡会にて検討

検討の手順

・山中湖村の教育の現状
・児童生徒の長所・短所

↓

・どこをより伸ばすか
（将来必要となる力をふまえて）

・育てるべき児童生徒像

↓

・具体的方策
（必要となる環境）

↓

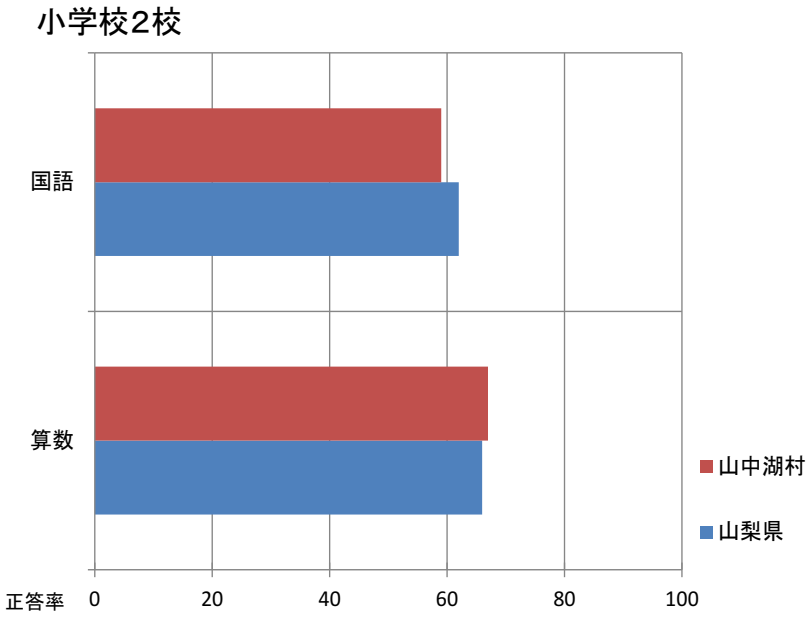
統合小学校の基本コンセプト

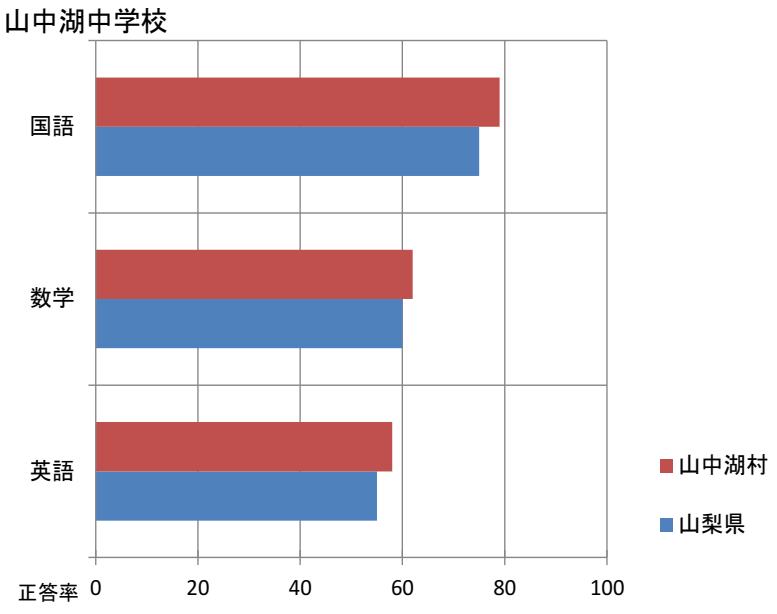
山中湖村の教育の現状

令和元年度　「全国学力・学習状況調査」結果より

①学習の状況について

	国　語	算 数 ・ 数 学	英　語
小学校2校	県平均とほぼ同等	県平均とほぼ同等	
山中湖中学校	県平均とほぼ同等	県平均とほぼ同等	県平均とほぼ同等





・児童生徒の特徴

＊学習状況調査の質問紙集計結果をふまえて

☆長所：山中湖村の子どもたちのどこをさらに伸ばすか？

・豊かな自然の中でのびのび育ち、純朴でまじめで素直

・挨拶や言葉遣いもよく基本的な生活習慣が身についている

・交友関係においては年少者への優しさを基本に良好な「縦」の関係がみられる

・学校行事に積極的に参加する

・家の仕事を手伝ったり、祭りや行事等に参加する中で成長

・児童生徒の特徴

＊学習状況調査の質問紙集計結果をふまえて

★短所：山中湖村の子どもたちのどこを改善するか？

・学校においては比較的小集団かつ固定化した人間関係の中で、安心感と引き換えに主体性やたくましさが育ちにくい

・幼児教育の場での発達に個人差が大きく、それが小学校にそのまま引き継がれるため、特別支援教育的なアプローチが必須

・家庭学習時間に2極化がみられる

・余暇にテレビやビデオ・DVDの視聴、ゲーム・インターネットに費やす時間が多い

～教育環境の特徴～

○自然環境に恵まれている（世界遺産の富士山、山中湖）

○財政補助が多い（村担教員、通学補助、資格試験補助、高校就学補助 等）

○ICT環境が整っている（ハード、ソフト両面）

○先進的な英語教育（英語教育推進委員会、英語指導主事、ALT）
　＊英語特区の成果を維持拡大

○地域の特徴を生かしたスポーツが盛ん（スケート、ヨット、自転車）

○村内3校間、学校と委員会、学校と地域の結びつきが強い

○地域、保護者の学校への理解、協力、支援が得られている。

～教育環境の特徴～

●自然環境が厳しい（冬季）

●通学距離が長く、自転車通学、保護者の送迎が多い

●児童・生徒数が減少し、一学年複数クラス設置が困難

●中堅教員（教務主任、学年主任）の層での人材が不足

●教員の異動のサイクルが早い

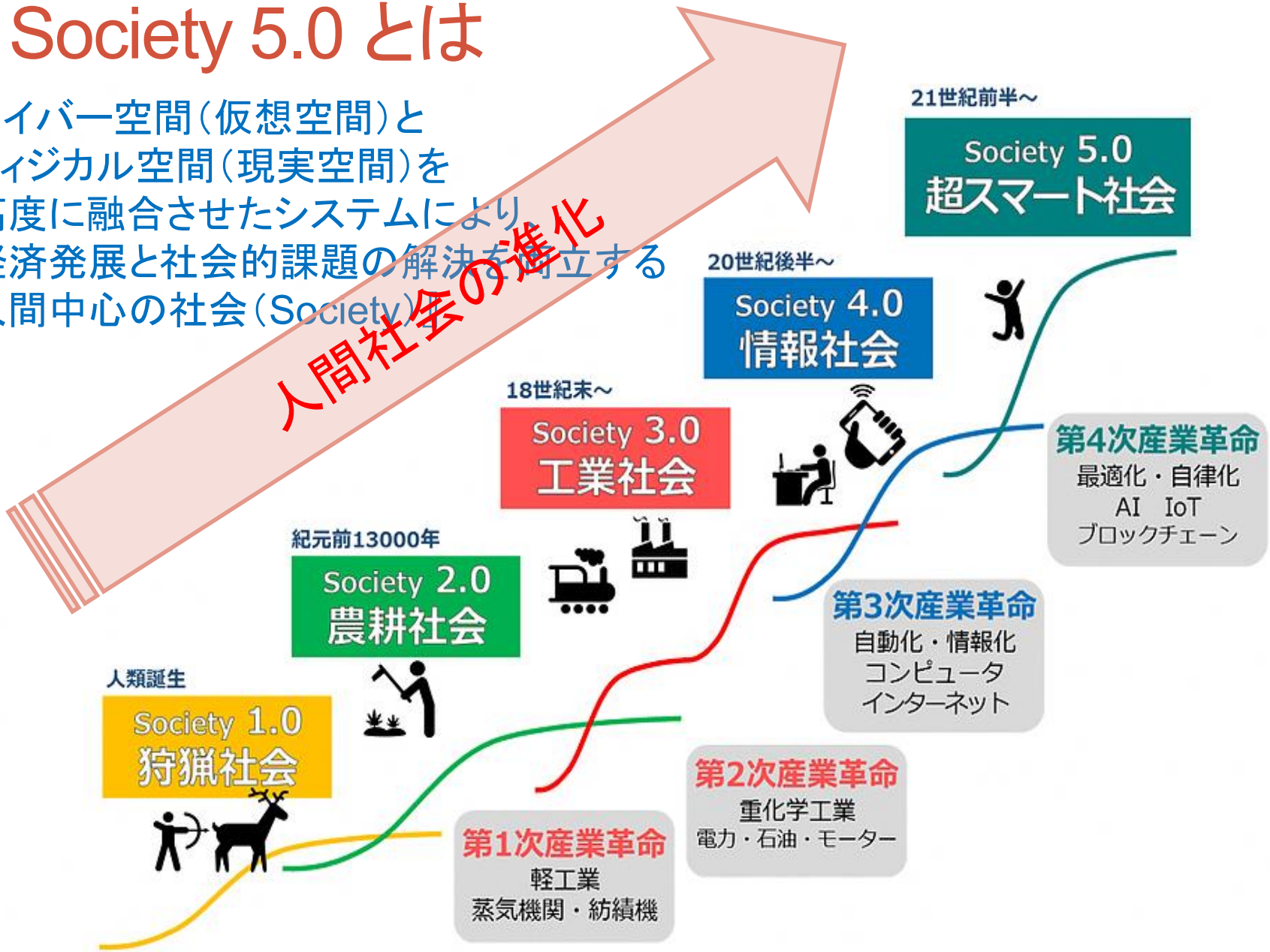
●非常勤、村担の確保が難しい（地理的条件　通勤費）

●学力が低いことに対して生徒、保護者の危機感が希薄である場合がある　→　高校受験への姿勢に課題

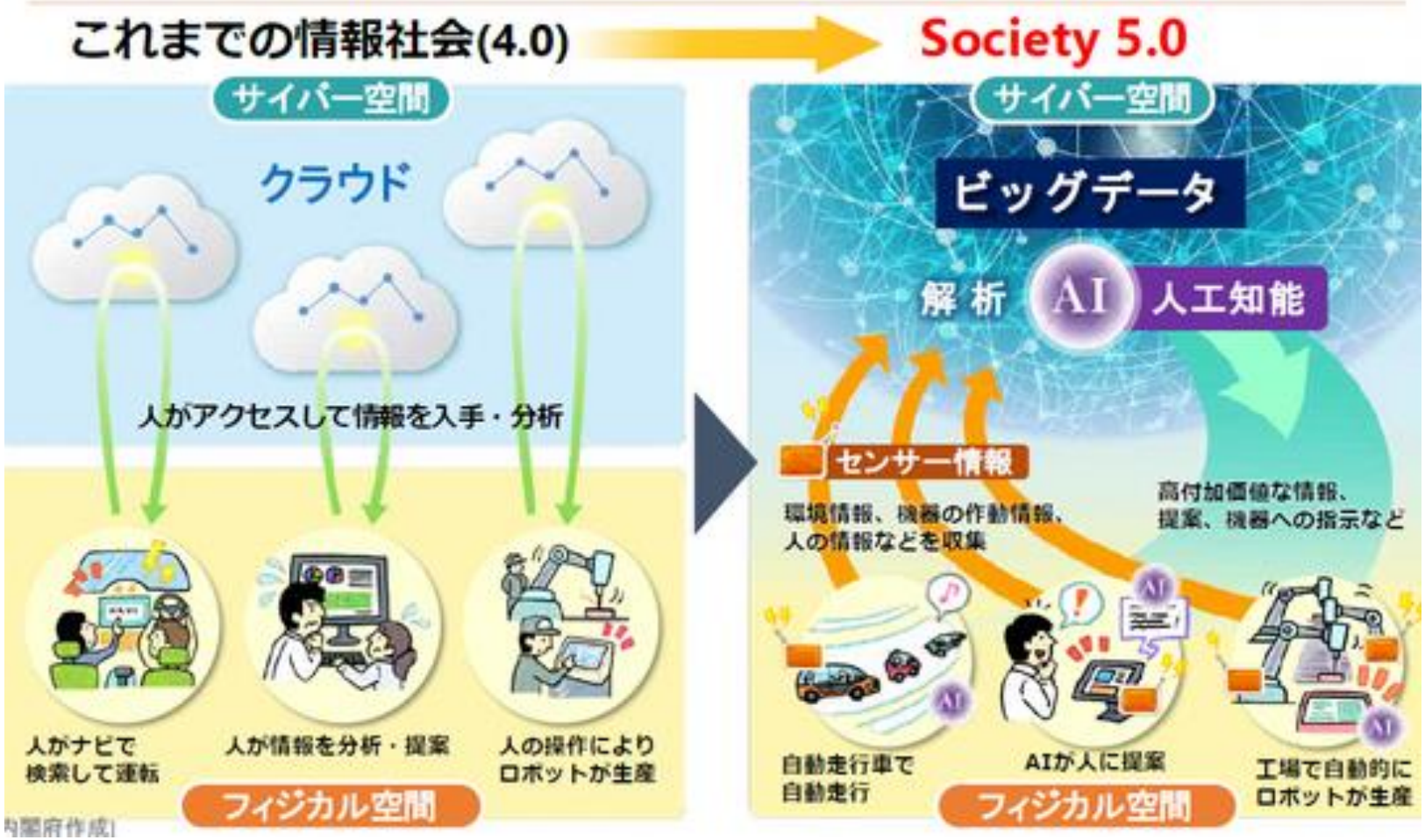
これからの教育の方向性
（社会の変化　SOCIETY 5.0を中心に ）

Society 5.0 とは

『サイバー空間（仮想空間）と
フィジカル空間（現実空間）を
高度に融合させたシステムにより
経済発展と社会的課題の解決を両立する
人間中心の社会（Society）』



Society 5.0 で　出来ること



人がさまざまな作業から解放され、創造的な作業に専念できる時代

・遠隔医療　・自動運転システム　・スマート農業

・スマート工場　・無人店舗

Society 5.0の社会像

日本の労働人口の約49%が、ロボット(AI)で代替可能に

AI技術の発達

⇒定型的業務や数値的に表現可能な業務は、
ＡＩ技術により代替が可能に
⇒産業の変化、働き方の変化

2045年問題

日本の課題

・ＡＩに関する研究開発に人材が不足、少子高齢化、つながりの希薄化、自然体験の機会の減少

非認知能力の重要性

人間の強み

・現実世界を理解し意味づけできる感性、倫理観、板挟みや想定外と向き合い調整する力、責任をもって遂行する力

人間の能力 ＝ 認知能力 ＋ 非認知能力

↓ 試験等で測れる

↓ 試験等では測れない

認知能力

・IQ
・言語
・思考論理
・記憶
・知識活用

非認知能力

・意欲・好奇心
・柔軟性・自己肯定感
・協調性・社交性
・思いやり・責任感
・ストレス対応力
等

社会の進化と教育ニーズの変化

勉強の時代
（知識記憶型）

学習の時代
（アクティブ・ラーニング）

学びの時代
（価値創造のための学び）

Society 5.0 に必要な教育

「勉強」の時代

（工業社会）

- 一斉授業で知識再生型の教育
- 知識を正確に記憶する基礎学力、忍耐強さ、予め定められた計画を着実にこなす正確さを重視

「学習」の時代

（情報社会）

- 主体的・対話的な学び（アクティブ・ラーニング） を重視
- 新しい価値や「納得解」の創出を重視

「学び」の時代

（超スマート社会）

- 教育ビッグデータを収集・分析して「個別最適化された学び」
- 価値創出のための学び
- 実習、体験重視
- 個人の学習成果の電子化、蓄積

労働者 → 創造・創出者

育てるべき児童生徒像について
～具体的方策（必要となる環境）

【非認知能力】育てるべき児童生徒像
～将来必要となる力をふまえてどこをより伸ばすか～

○既存（より伸ばす）
- しなやかな人間性
- 人間関係構築力
- 異質なものへの寛容さ
- 安定した情緒と体力

○開発（意識的・意図的に指導）
- 向上心・向学心
- レジリエンス（困難や逆境から立ち直る心の弾力性）
- 健全な自己主張
- 郷土愛

【非認知能力】 ・具体的方策（必要となる環境）

【ハード面】

○ 明るく広々とした校舎
○ 完全なバリアフリー化
○ 樹木、花壇、菜園、屋外学習スペース（東屋）
○ 多目的スペース　外部交流スペース　和室
○ 複数の屋内運動施設（体育館+講堂）＊冷暖房
○ 音楽・舞台発表（鑑賞）ができる施設
○ ランチルーム
○ 防犯設備
○ 放課後児童館
　その他

【非認知能力】・具体的方策（必要となる環境）

【ソフト面】

◎　常駐SC、特別支援専門スタッフ

◎　各種講演会内容に対応する人材（コーディネーター）

◎　健康相談スタッフ

◎　バランスのとれた教職員集団（経験年数・専門性・男女比）

◎　学校応援団　放課後子どもクラブ支援員

その他

【認知能力】育てるべき児童生徒像
～将来必要となる力をふまえてどこをより伸ばす～

○既存（より伸ばす）
- 情報収集・発信能力
- 基礎的英語運用能力
- ICT活用能力

○開発（意識的・意図的に指導）
- 課題発見・解決能力
- 確かな日本語能力に基づく思考力
- 実践的な英語運用能力
- 理数教科への興味・関心

【認知能力】 ・具体的方策（必要となる環境）

【ハード面】

- ○ メディアルーム（図書館＋PC室＋AV編集室）
- ○ グループ活動・調べ学習のスペース、テーブル
- ○ 特別支援教室、プレイルーム
- ○ 個人学習支援室（自習室）
- ○ 学習支援ICT機器
- ○ 強力なWiFi、一人一台端末→[GIGAスクール]
- ○ 情報提示ディスプレイ（各階）

その他

【認知能力】・具体的方策（必要となる環境）

【ソフト面】

◎　専科教員（英語、プログラミング、芸術、体育）

◎　ICT専門員

◎　常駐ALT

◎　プログラミング教材

その他

最新の教育環境（校舎・施設）について

～　統合小学校の基本コンセプト　～

山中湖村の子どもたちのどこをさらに伸ばすか？　（どこを改善するか？）

【概要】

豊かな自然の中でのびのび育ち、純朴でまじめで素直な児童生徒が多い。また経済的、家庭環境的にも比較的恵まれ、物心ともに満たされた子どもが多く、挨拶や言葉遣いもよく、基本的な生活習慣が身についている児童生徒の割合が高い。また交友関係においては年少者への優しさを基本に良好な「縦」の関係がみられる。

一方、学校においては比較的小集団かつ固定化した人間関係の中で、安心感と引き換えに主体性やたくましさが育ちにくい面がみられる。また幼児教育の場にあっても発達に個人差が大きく、それが小学校にそのまま引き継がれるため、特別支援教育的なアプローチが必須であると思われる。

～児童生徒の特徴～

○基本的生活習慣が身についている

○純朴な児童生徒が多い（素直でまじめ、誠実）

○挨拶、言葉遣いが良い

○上級生と下級生の仲が良い（低学年にやさしい）

「縦」の関係が良好

○落ち着き、けじめがある

○学校行事に積極的に参加する

○家の仕事を手伝ったり、祭りや行事等に参加する中で成長

●余暇にテレビやビデオ・DVD の視聴、ゲーム・インターネットに費やす時間が多い

●家庭学習時間に二極化がみられる。仕事の関係で保護者が子供の様子を見きれない家庭もある

●地域・社会への関心、ボランティア意識に二極化がみられる。

●恥ずかしさが先行し、自ら進んでという部分が弱い　特に男児

●幼児教育（保育園）で生ずる個人差（格差）が大きい　特別支援教育の充実が必要

●経済的に裕福な家庭が多いためか、甘やかされていると感じる場面もある

●集団が小さいため、人間関係が固定されてしまう傾向がある

●長く慣れ親しんだ集団の中で、自分を変えていくきっかけを掴みにくい

●大きな集団で揉まれることが少なく、たくましさが育ちにくい

●狭い地域の中で、保護者同士の関係の悪さが、子供につながってしまうケースがある

△村外、県外へ進学する児童生徒が一定数存在する

△他地域からの転入生、外国籍の児童生徒が増えている

～教育環境の特徴～

○自然環境に恵まれている（世界遺産の富士山、山中湖）

○財政補助が多い（村担教員、通学補助、資格試験補助、高校就学補助　等）

○ＩＣＴ環境が整っている（ハード、ソフト両面）

○先進的な英語教育（英語教育推進委員会、英語指導主事、ＡＬＴ）

＊英語特区の成果を維持拡大

○地域の特徴を生かしたスポーツが盛ん（スケート、ヨット、自転車）

○村内３校間、学校と委員会、学校と地域の結びつきが強い

○地域、保護者の学校への理解、協力、支援が得られている。

学校と一体になって子供を育てていこうとする雰囲気がある

○学校での読書活動は活発　　司書の創意工夫が顕著

●自然環境が厳しい（冬季）

●通学距離が長く、自転車通学、保護者の送迎が多い

●生徒数が減少し、一学年複数クラス設置が困難

●中堅教員（教務主任、学年主任）の層での人材が不足

●教員の異動のサイクルが早い

●非常勤、村担の確保が難しい（地理的条件　通勤費）

●学力が低いことに対して生徒、保護者の危機感が希薄である場合がある　→　高校受験への姿勢に課題

●小学校入学時の学力が低い（保育ｖｓ知育）　保護者のニーズは保育

●小中連携を進めているが、互いの学校の距離が遠く限界がある

△地域意識が強い

△内外からの観光客が多い→保護者の職業で自営の割合が高い

△体験入学の利用希望者が多い

△Ｂ地区校の為若い教員が多く活気があるが指導力に不安もある

△スポ少、クラブチームの活動が盛んで挨拶、しつけでプラス面があるも、　部活動で部員が不足→合同チーム

○＝長所　●＝短所　△＝その他

（教育目標）

これからの「Society５．０」の時代　及び
３０年後の村のビジョンを想定した「学び」をも考慮した教育目標を設定する。

社会の変化

育成する能力

Society 5.0

【非認知能力】

○既存（より伸ばす）

- しなやかな人間性
- 人間関係構築力
- 異質なものへの寛容さ
- 安定した情緒と体力

○開発（意識的・意図的に指導）

- 向上心・向学心
- レジリエンス
  （困難や逆境から立ち直る心の弾力性）
- 健全な自己主張
- 郷土愛

【認知能力】

○既存（より伸ばす）

- 情報収集・発信能力
- 基礎的英語運用能力
- ICT 活用能力

○開発（意識的・意図的に指導）

- 課題発見・解決能力
- 確かな日本語能力に基づく思考力
- 実践的な英語運用能力
- 理数教科への興味・関心

システム：小中一貫・ＣＳ

育てるべき児童生徒像を実現するために　必要な環境

【ハード面】

○　明るく広々とした校舎

○　樹木、花壇、菜園、屋外学習スペース（東屋）

○　多目的スペース　外部交流スペース　和室

○　複数の屋内運動施設（体育館+講堂）＊冷暖房

○　音楽・舞台発表（鑑賞）ができる施設

○　ランチルーム

○　防犯設備

○　放課後児童館

【ソフト面】

◎　常駐ＳＣ、特別支援専門スタッフ

◎　各種講演会内容に対応する人材（コーディネーター）

◎　健康相談スタッフ

◎　バランスのとれた教職員集団（経験年数・専門性・男女比）

◎　学校応援団　放課後子どもクラブ支援員

【ハード面】

○　メディアルーム（図書館＋ＰＣ室＋ＡＶ編集室）

○　グループ活動・調べ学習のスペース、テーブル

○　特別支援教室、プレイルーム

○　個人学習支援室（自習室）

○　学習支援 ICT 機器

○　強力なＷｉＦｉ、一人一台端末→[GIGA スクール]

○　情報提示ディスプレイ（各階）

【ソフト面】

◎　専科教員（英語、プログラミング、芸術、体育）

◎　ＩＣＴ専門員

◎　常駐ＡＬＴ

◎　プログラミング教材

統合候補地としての条件

第3回小学校統合検討審議会
令和2年8月28日

条件1

- **安全で健康的な環境**
- 自然災害に対して安全な対応が可能
- 安全に建てられる地質や地盤
- 一定以上の道路幅（グリーンベルト）
- 見通しの良い地形
- 良好な日照と自然景観
- 出入りの多い施設が隣接していない

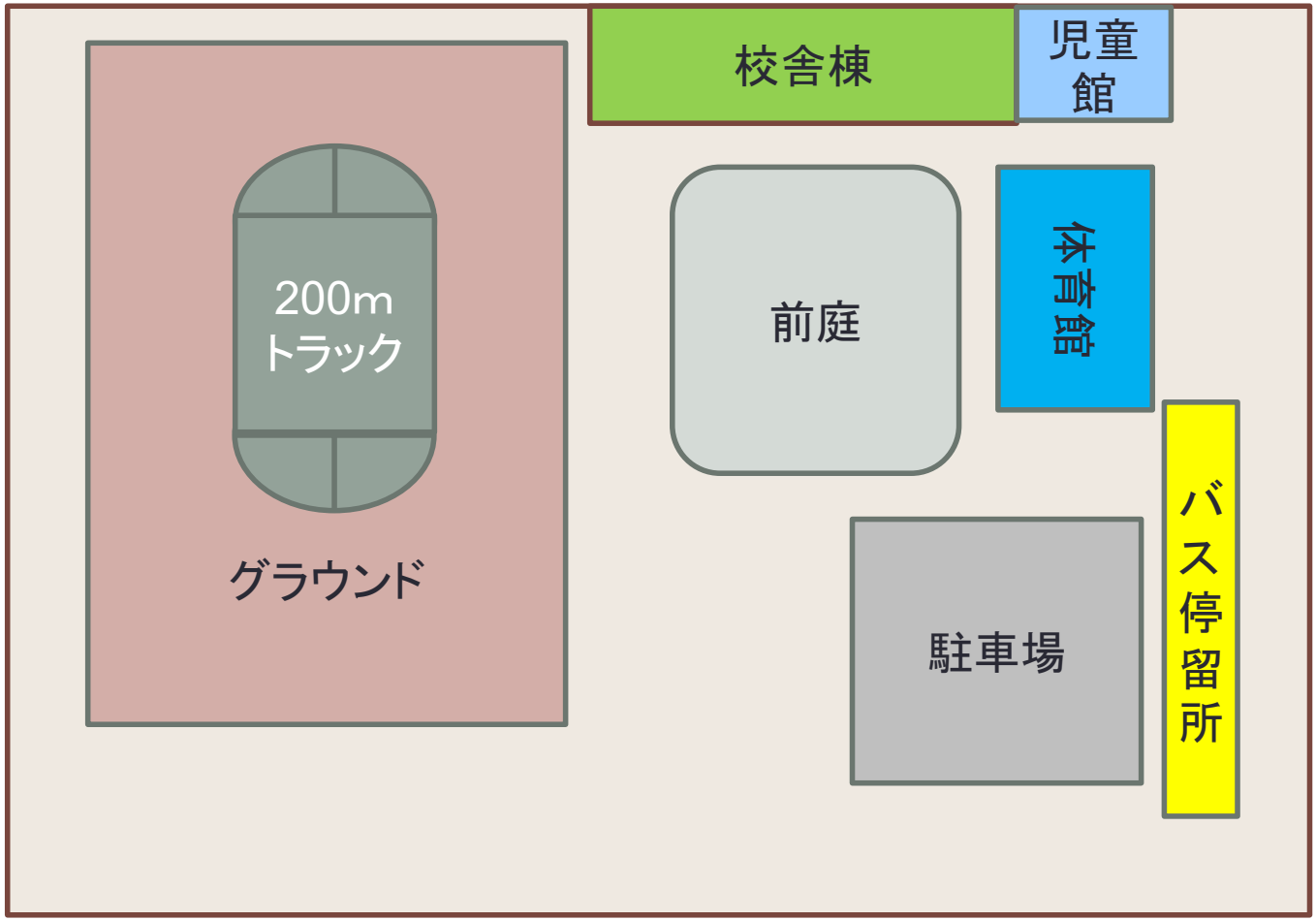
条件2

- **適正な面積及び形状**

- 必要とする校舎・付帯施設の条件を満たす
- 校舎棟、体育館、グラウンド、前庭（低学年用広場）、スクールバス乗降場所、駐車場、放課後児童館、（プール）
- 将来の施設需要に対応できる面積

小学校に必要な施設

- 校舎棟
- 体育館
- グラウンド
- 前庭
- バス停留所
- 駐車場
- 放課後児童館



条件3

・教育上ふさわしい環境

- 小中一貫教育がしやすい距離
- 公の施設（役場・公民館等）、共同利用ができる施設が隣接している
- 教育上ふさわしくない施設等が隣接していない

条件4

- 通学環境（徒歩で4km以内）

- 児童が疲労を感じない通学距離
- 遠距離通学になる児童がスクールバスを利用できる
- 安全な通学路の確保（グリーンベルト）
- 防犯上、死角が多い場所、人通りのない場所は避ける

条件5

・その他の条件

- 早期開校にむけ条件整備に時間がかからない
- 災害時の避難場所としての適正

統合校開校までのロードマップ

統合検討審議会の結論（令和２年１１月）

＊議会報告（令和２年１２月）

住民意向調査（令和３年１月～２月）

・学校関係者、保育所並びに学校保護者への説明及び意見交換
・住民説明会、意見交換
・学校関係者や地域からの意見集約

小学校統合計画の策定（令和３年３月）

・住民意向調査での意見を反映

小学校統合計画の公表（令和３年４月）

・パブリックコメント実施

統合へ向けた準備（令和３年５月～令和６年３月）

・新設小学校検討委員会の設置　→コミュニティスクールの「学校運営協議会」の母体
（教育目標、カリキュラム、校舎施設、校名、校歌、校旗、ｽｸｰﾙﾊﾞｽの運用等の検討）
・３校での合同研究会
（カリキュラム、行事等）　小中一貫教育準備会
・交流学習会等の実施
・ｽｸｰﾙﾊﾞｽ等通学手段の整備
・統合小学校及び通学路を含めた周辺整備
・閉校、開校へ向けた取り組み
・放課後子どもプランの実現に向けた体制整備（施設・運営）→　運営協議会

建設に向けた準備

・土壌調査及び基本設計（令和３年）
・用地購入
・実施設計（令和４年）
・造成・建築及び外構工事（令和４～５年）

統合小学校の開校（令和６年４月）

＊日程は予定